

水の味はどう決まる?



東京都水道局　津田　華子
（令和７年度抄録委員会委員）

1.水の味はどうやって決まるの？

水に含まれるミネラル分の成分やその量によって、味の違いが生まれます。地表に降り注いだ雨水や雪解け水は長い年月をかけて地中に浸透し、地層や岩石を通過することでミネラルの成分を含むようになります。河川水や地下水に含まれるミネラル成分や含有量が異なるのは地形や地質の違いによるものです。地質的に石灰岩層が多い沖縄や関東では、ミネラル分を多く含む、硬度が高い水が特徴的です。

2.水の味に影響するものとは？

水には「おいしくする成分」、「まずくする成分」と、味に影響を及ぼす様々な成分が溶け込んでいます。「おいしくする成分」は、多すぎず、少なすぎず、適量かつバランスよく含まれることで、まろやかでコクのある水となります。

分類	水質項目	特徴	内容	要件値
おいしくする成分	蒸留残留物	蒸発した際に残る物質（主にミネラル分）	多い：苦味・渋み増 少ない：コクがない	30～200mg/l
	硬度	カルシウム・マグネシウムの含有量	高い：クセがある 日本の平均値：約50mg/l（軟水に分類）	10～100mg/l
	遊離炭酸	含まれる炭酸ガスの量	多い：刺激が強い（地下水に多く含有）	3～30mg/l
まずくする成分	過マンガン酸カリウム消費量	有機物の量	多い：渋みや水の味を損なう	3mg/l以下
	臭気強度	カビや藻類等による臭気	強い：不快な味のもとになる	3以下
	残留塩素	消毒用塩素の残留量	高い：カルキ臭が強くなり、まずく感じる	0.4mg/l以下
	水温		高い：不快な味のもとになる	20℃以下

※「おいしい水の要件」（昭和60年「おいしい水研究会」による提言）を元に作成
※「おいしい水研究会」：高度経済成長期の水源汚濁や生活向上を背景に当時の厚生省が設置

3.水をよりおいしく味わう工夫

水道水は沸騰させると、残留塩素を低下させカルキ臭がなくなって飲みやすくなるといわれています。
一方で、沸騰しすぎると塩素の殺菌効果が失われ、雑菌が繁殖しやすくなりますので注意です。
夏はキンキンに冷たく、冬はフーフー熱いお湯で、水をおいしく味わいましょう！

～参考～

日本水道新聞社　https://suido-gesuido.co.jp/history/
東京都水道局　https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suigen/s_mokuhyo
神奈川県企業局　https://www.pref.kanagawa.jp/docs/w6a/wqa/oishiimizu.html